



「第1回 SDGs 住宅賞」表彰式 参加レポート

2024年2月20日
一般財団法人ベターリビング 広報部

住宅・建築 SDGs 推進センターが主催した「第1回 SDGs 住宅賞」表彰式に参加してきました！

1. SDGs 住宅賞について

SDGs 住宅賞は、住宅・建築 SDGs 推進センター（以下、IBECs）が主催しているイベントで、住宅として優れた作品であると同時に、住宅の計画、生産、運用、廃棄まで全ての段階において SDGs 達成に貢献する取組で、その普及効果が期待されるものを顕彰するために実施されています。

以前は、サステナブル住宅賞とされていたものを、今回から SDGs 住宅賞と名称を変更しての実施となりました。

2. はじめに

表彰式の開催にあたり、IBECs の村上周三理事長より、「環境・省エネ賞、サステナブル賞そして SDGs 住宅賞と3回目の名称変更となりました。この度選ばれた6作品には SDGs 住宅と変更した主旨を的確に受け止めてご提案いただいたことに感謝申し上げます。」とのご挨拶がありました。

続いて、来賓の国土交通省 佐々木俊一大臣官房審議官より、「計画、施工、運用、廃棄にいたるまで建築主（居住者）と設計者、施工者が SDGs の目的を共有して推進していただいたことに感謝するとともに、更なる SDGs 住宅の推進をお願いしたい。」とのご挨拶がありました。

3. 受賞作品と講評と表彰

はじめに、審査委員長である東京大学大学院 清家剛教授より、「住宅は建築としては小さい部類であり SDGs と広くうたっても貢献するのはなかなか難しいと思いますが、設計者と建築主、施工者がどのような方向を向いて共に考えることができるかが重要で、その先に SDGs のゴールがあると考えています。

従来の省エネや木材利用を多用するような住宅も重要ですが、より広がりのある住宅でこのような所まで考えて、このようなことまでできるのかという刺激を与えるような作品を審査のうえで評価させていただきました。」との総評がありました。

続いて、各賞の受賞作品について講評と表彰がありました。

国土交通大臣賞を受賞した「明野の高床」は、通常の手堅い住宅ではないものの、設計者のこだわりが感じられ、その思想を建築主が楽しみ、郷土の土地のことをよく考えたうえで、設計者と一緒に良い解を導き出したことが評価されての受賞となりました。

住宅・建築 SDGs 推進センター理事長賞を受賞した「巡る間」は、審査書類だけではなく、審査員が現地に赴いて審査したそうです。限られた条件の中、微妙な間や空間のつながりなどが非常に丁寧に設定されており、そういった答えを見せてくれた点が評価されていました。

ベターリビング理事長賞を受賞した「築59年の葉山の家」は、明確な性能と住宅に対する愛着が織り込まれていることが評価されての受賞となりました。

そのほかの賞を受賞した3作品に対しても、評価された点についての講評と表彰がありました。



村上周三理事長



審査委員長 清家剛教授



ベターリビング理事長賞を授与する
呉常務理事

4. 設計者によるプレゼン（上位2賞）

国土交通大臣賞「明野の高床」（設計者：能作文徳建築設計事務所）

設計者の能作文徳氏より「自然界の循環と人工物の循環はともに同調していて、人間によって自然を再構築することができるというテーマで設計した。土には人間に必要な微生物がたくさんいるが、現在の住宅はベタ基礎等で土を覆い隠してしまうので、土中の微生物が育たない。この住宅は高床式にして土地の呼吸を妨げず土地の健全性を追求した。また、断熱にも地元の藁と土で作った藁ブロックを敷き詰めた壁を採用した。」とのご説明がありました。高床式にした理由にとっても納得しました。設計者の能作文徳氏は建築家でありながらも、どこことなく哲学者の雰囲気を感じさせる方でした。



能作文徳氏



国土交通大臣賞「明野の高床」

住宅・建築 SDGs 推進センター理事長賞

「巡る間」(設計者: tyfa/Takaaki Fuji+ Yuko Fuji Architecture、株式会社エリアノ)

藤貴彰氏より「道路に面した西側は人通りも多いため、西側には窓を一切作らずにハイサイドライトで採光をとった。二階の床はスノコ敷きにし、夏にはそこに畳を敷くことで冬と夏とで採光や気流を調整するなど家具や置物により自由に空間を調整することが可能となっている。また、将来的に道路の拡幅計画が決まっていることから、建築物を解体移築しやすいようにあえてビスを露出させるなどの工夫をした。また、建築時にはウッドショックでプレカット材が高騰したため、ホームセンターで調達できるような木材で建築した。」とのご説明がありました。説明を伺うだけでも、たくさんの SDGs 思想が詰まった作品に感じられました。

また、藤貴彰氏は、循環する建築を目指し、ヴェネチア・ビエンナーレが行われた際には、廃棄パスタで作った茶室などを展示したそうで、芸術家肌を感じさせる方でした。



藤貴彰氏



住宅・建築 SDGs 推進センター理事長賞「巡る間」

6. おわりに

IBECs では、来年度は「SDGs 建築賞」の作品募集を行う予定だそうです。また、今回の受賞作品の概要、講評などの詳細は、主催者である IBECs のホームページからご覧ください。

<問い合わせ> 住所: 〒102-0071 千代田区富士見 2-7-2
担当: 広報部 (03-5211-1402)

